**現代教育論シケプリ**

**（2008年夏学期　丹野義彦教官）**

**１、学校教育の病理**

○中学校を頽廃させた３つの病理

　**ａ校則強化**

**ｂいじめ**

**ｃ対教師暴力**

→では、これら３つの関係性とは？（３タイプに分類。図１参照）

①**悪循環説**

校則を強めた結果いじめや暴力が起こる。いじめや暴力が起こるとそれらを押さえつけるためにますます校則が厳しくなる…

＝諸悪の根源は校則である

②**エスカレート説**

受験ストレスがまず友達（弱者）に向かい、それが次第にエスカレートして教師に向かうようになった。

＝校則は特に問題ではなく、諸悪の根源は「受験ストレス」

③**板挟み説**

学校外の非行が校内に入ってきて教師に暴力が向かう。それを抑えるために校則を設けた結果子供同士のいじめが起こった。

図1

＝校則がジレンマに陥る

○歴史的に考える　(→③で説明できる事柄が最も多い)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 1960年代中 | ①非行の第2ピーク | 後 | ⑧管理過剰＋登校拒否 |
| 後 | ②大学紛争 | 1990年代前 | ⑨先輩後輩関係＋オカルトブーム＋オタク　　　　 |
| 1970年代前 | ③シラケ＋内ゲバ＋暴走族 | 中 | ⑩新々宗教事件＋いじめの第2ピーク＋性非行 |
| 中 | ④乱塾＋落ちこぼれ | 後 | ⑪ナイフ事件＋学級崩壊 |
| 後 | ⑤非行＋家庭内暴力 | 2000年代前 | ⑫キレる＋児童虐待 |
| 1980年代前 | ⑥非行＋校内暴力 | 2000年代中 | ⑬学力低下＋ニート＋引きこもり |
| 中 | ⑦いじめ＋子どもの自殺＋偏差値体制 | 　　　　　　　　 |

①東京オリンピックの頃第二の非行ピーク。青少年犯罪増加。

②68～69年にかけて**大学紛争**が盛り上がる。

ex.安田講堂占拠…あまりの混乱ぶりに69年の東大入試は行われず。

③大学紛争が収まってくると、学生は一気に沈静化、**シラケ**とか**アパシー**(無関心の意)とか呼ばれる状態にになった。しかし一方で学生運動の劣鋭化が起こり**内ゲバ**(ゲバとはドイツ語で“暴力”を意味する“ゲバルト”の意)と呼ばれる過激派も登場、浅間山荘事件(1972年)や連合赤軍事件が起こる。**暴走族**が出てきたのもこの頃。ちなみに、丹野教授が東大に入ったのは1973年だそうです。

④この頃は受験フィーバーで、あちこちに学習塾が出来て**乱塾**と呼ばれる状態になった。サンデー毎日が高校別の大学合格者数リストを発表し始めたのもこの頃。その一方勉強についていけなくなった生徒は“**落ちこぼれ**”と呼ばれ、高校で7割、中学校で5割、小学校で3割がそれに該当したことから“**落ちこぼれの七五三教育**”と皮肉られた。

⑤この頃、ツッパリ、ヤンキーと呼ばれる**非行**学生が増え、**家庭内暴力**も頻発。映画化もされた開成高校生絞殺事件(1977年)は家庭内暴力を振るう高校生を父親が殺害してしまうという事件であり、金属バット事件(1980年)も学生が両親を撲殺してしまうという事件だった。

⑥この頃も横浜市野宿者連続差別虐殺事件(1983年)に代表されるように**非行**が続発し、暴力が更にエスカレートして、**学校内**でも事件が起きるようになる。東京･町田の忠生中学校事件(1983年)では暴力を振るった生徒が教師に刺されるなど、かなり荒れた時代だった。

⑦ようやく非行は減ったけが、今度は“**いじめ**”という語が一般化するぐらいいじめが流行り、**子どもの自殺**も相次いだ。今でも演劇化される中野富士見中学校事件(1986年)が起きたり、歌手の岡田有希子の飛び降り自殺(1986年)を受けた後追い自殺が連鎖的に発生したりした。一方、1979年に始まった大学入試共通一次試験以来、大学入試が社会の関心事になって、大学だけでなく生徒にまで偏差値をつけるという**偏差値体制**が一般化したのもこの頃。

⑧非行やいじめを抑えるために、学校の生徒管理が過剰になってきた。岐陽高校体罰死事件(1985年)、校門圧死事件(1990年)など、**体罰**や**管理過剰**が社会問題化した事例も多い。そして窮屈になった学校に対して**登校拒否**(当時は不登校とは言わなかった)をする生徒も増加。

⑨非行やいじめが抑え込まれて、校内には一応の平和が訪れた。問題といえば、異常なまでの**先輩･後輩関係の強化**があったり、UFOや超能力といった**オカルトブーム**が隆盛したり、連続幼女誘拐殺人事件(1988年)以降マイナスイメージとしての“**オタク**”という言葉の流行があったりした程度。

⑩この頃は地下鉄サリン事件(1995年)などの**新々宗教事件**（オウム真理教による犯罪）や、援助交際などの**性非行**が問題視されていた。そのためマスコミでは余り取り上げられなかったが、**いじめの第2のピーク**があったのもこの頃で、大河内事件(1995年)などの自殺事件も起こった。

⑪**校内暴力**が増加して、バタフライナイフなどを携帯する生徒が増えたのがこの頃。また、それまでも中学校や高校などで見られていた**学級崩壊**が低年齢化して、授業中に歩き廻る小学生が出てきたり、自殺予告をほのめかして運動会などを中止させる電話が相次いだりして社会問題になった。

⑫この頃は“**キレる**”という言葉が一般化するくらい校内暴力が横行し、**スクールカウンセラー**が設置されることも多かった。一方で家庭では、**児童虐待**で子どもが死亡するという事件が多発した。

⑬そして今の学校教育では、“**ゆとり教育**”の方針に基づく学習指導要領の改訂によって、子どもの**学力低下**が懸念されている。また格差社会にの影響等もあり、ニートやひきこもろの増加も社会問題化している。

※各項目の具体例は、授業中に丹野教官が挙げたものを、ネットによる裏づけ･名称変更を加えて載せているものです。

→ここまでは具体的に見てきたが、ここで「教育の歴史」を大きくとらえてみよう！（図2）

受験体制強化（ex.乱塾）

→学業不適応者が非行に価値を見出す

→非行や校内暴力の増加

→子供たちへの管理体制強化

→陰でのいじめが発生、不登校も増加

→解決策として「ゆとり教育」提唱

図２

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→学力低下

学校とは本来「学歴価値」や「非行価値から生徒を守る機関だった。

⇔しかし現実は…

**学校教育は常に「受験」と「非行」の間に揺れている振り子である。**

:「学力」を重視すると「非行」が増加

「非行」を抑えようとすると「学力」が低下



**２、校内暴力**

主に中学校で発生

80年代に非連続的急増が起こる（図３）

(1)現象

Ａ器物損壊→Ｂ生徒間暴力→Ｃ対教師暴力

Ａ器物損壊

　ゴミの**放置**

→ロッカーやトイレなどの**破損**、**落書き**

→窓ガラスへの投石や放火といった**破壊**

図３

Ｂ生徒間暴力

　**校外非行集団との接触**（ゲーセン等でヤンキーと）

→校外非行集団による**金品の強要**、校外非行集団の**校内侵入**

　この段階では校内の非行性の生徒はまだ被害者

→**抗争**の過程で校外非行集団に対抗する必要が生まれる

→**校内非行集団の結成**（学年をまたぐ）

→**魅力**を帯びる（優越感に浸れる、いじめられずに済む、仲間ができる）

→活動が校内へも及ぶ（“普通の”生徒が巻き込まれていく）

→**正常集団**への中傷、**弱い者いじめ**

①非行集団がクラスのリーダー格の子どもを中傷

　②リーダーと一般の子どもとの繋がりが切れる

　③一般の子どもが「見て見ぬふり」をする「中間層」になる

→集団の分裂

　正常集団の何人かが「使い走り」になる＝**被害者の加害者化**…cf.４－(3)①

　※非行集団からの**脱落防止策**

　　・不良顕示スタイル（外見を変えると後戻りしにくくなる）

　　・リンチ、我慢焼き（チクリ防止、忠誠心の証明）

　　・二次的非行（金品の搾取）

　Ｃ対教師暴力（図４参照）

規則への段階的違反

　→**合理化、公然化**　…注意の仕方が異なるなど教師間の足並みの乱れを逆手に取る

　→**授業妨害**

　→**衝動的対教師暴力**

　→**挑発的行動**

　→**計画的対教師暴力**

（2）原因と対策

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 外的要因 | 内的要因 |
| 誘因の増加　↑ | ① | ② |
| 抑止力の低下↓ | ③ | ④ |

【原因】

①外的誘因の増加



【対策】・校外非行集団との接触を断つ　ex.オートバイの３ない運動「（免許を）取らない」、「（単車を）買わない」「乗らない」

　　　 ・番長集団の解体　ex.退学、謹慎

　　　 ・非行集団の引き継ぎ防止　ex.**学年隔離政策**

②内的誘因の増加

＝**学校への不満、欲求不満**

　・学業不振→教師への恨み　【対策】「わかる授業」→「ゆとり教育」に（→学力低下）

　　cf.校内暴力で補導された生徒の成績…下位78％・中位21％・上位１％

　・自己評価の低さ　【対策】肯定的自己像の育成　ex.「友達のいいところを書き合おう！」

　・将来への展望の喪失　【対策】個別の進路指導

③外的抑止力の低下

（直接的抑止力：警察）…直接的な抑止力として「暴力」を用いることが可能だが学校ではあまり重視されず。

　間接的抑止力：学校　…学校が持つ抑止力とは「言葉」と「教育」。しかし学校は本来「平和」だと思われていたため抑止力を十分発揮してこなかった。

　　　　　　　　家庭　…「しつけ」をしない家庭増加。補導者の家庭の69％が放任主義。

【対策】・手口の研究、対策の研究→マニュアル作り（ex.教師の役割分担、制止の台詞）

　　　 ・毅然とした態度

　　　 ・家庭と学校との連携

　　　 ・早期発見、早期指導→生徒管理の導入（⇔体罰へ発展の恐れ）

④内的抑止力の低下

＝**規範意識**

←**自己中心性**（相手の痛みを思いやれない）や**自己顕示性**（目立ちたい！という意識。互いとの張り合いによって生まれる）によって破壊される。

【対策】・個別指導…非行少年の多くは大勢の中では威張るが1対1では素直になる、という心理を利用

 ・学校内における暴力否定宣言

　　　 ・民主的集団作り：生徒会活動

　　　 ・部活動の活性化（ex.必修クラブ活動）

**３、体罰・管理教育**

　校内暴力が学校に侵入してきた頃から学校は「管理主義」を強めた

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 禁止論 | 許容論 |
| 古典的・形式的 | ① | ② |
| 現代的・実質的 | ④ | ③ |

**体罰**

①古典的・形式的禁止論

＝法律による禁止

・**学校教育法第11条**で禁止

「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、学生、生徒及び児童に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。｣

・体罰は**生徒の人権侵害**である

・体罰は**単なる暴行**　ex.シゴキ

②古典的・形式的許容論

・**愛のムチ論**　ex.スキンシップ判決…「愛のムチ」公認?!

・**限定容認国**の存在

　←キリスト教的背景のもとで限定的に体罰を容認。

　　←子供のしつけのためなら親は体罰を与えてよい

　　　教師は親の代わりとして体罰を与えてよい

　←体罰のための規則があらかじめ決められている。

　⇔日本は「形式的に」は体罰が禁じられているため体罰についての「ルール」がない。

　　よって一度体罰が発生すると「歯止め」がきかなくなってしまう。

・**しつけ委任論**

→親が体罰を希望。子どもの「しつけ」を学校に委任。

③現代的・実質的許容論

・**非行対策**

　非行ピラミッド…1)対教師暴力への正当防衛　　　　　　　重度

　　　　　　　　　2)生徒間暴力、いじめの抑止

　　　　　　　　　3)規則違反への罰則

　　　　　　　　　4)授業不成立状況（授業崩壊）抑止　　　軽度

　　　　　　　　　　cf.授業三悪＝おしゃべり、遅刻、忘れ物

※教師へのアンケートから…「体罰の理由」

１おしゃべり　２規則違反　３教師への不服従　４非行　５けんか、いじめ　６サボり

７忘れ物

④現代的・実質的禁止論

体罰によって対教師暴力や非行などが制止されたとしても、体罰を行う教師には従うがかえってその不満が弱者に向かい、**弱い教師への反抗やいじめといった副作用**が生じる可能性があるため、やはり**体罰によらない非行対策が必要**（本質的解決）

・**倫理的要求**…放任でも体罰でもなく、「悪いことは悪い」と毅然とした態度で生徒に接する。能重真作が『ブリキの勲章』で自らの体験を記す。

・**「わかる授業」**への取り組み

・**「非体罰宣言」**を出す…一年間命がけ！

・**学級通信**を頻繁に作成

**４、いじめ**

学校が生徒管理を強める→結果、生徒間でいじめが発生した

【生徒管理の３つの種類】

　a.制定強化＝校則

 b.点検強化

　c.罰則強化＝体罰

　※最初は「生徒の非行→生徒管理」の順（生徒管理は後からの対策）

　　…c→b→aの順に進められる

* しかし「生徒の非行を未然に防ぐ」（非行予防としての生徒管理）ために

…a→b→cの順に制度を整える必要がある

…非行は防げたものの生徒間でいじめが発生

1. 統計

中学生500万人対象のアンケート（図４）

図 ４

•軽微ないじめまで含めると、70％の生徒がいじめを認知

＝いじめの一般化

•マスコミで取り上げられるような大きないじめは「氷山の一角」でしかない。

1. 経過
2. **鞘当て段階**

クラス替え等で周囲の環境が変わった際の「標的探し」の時期。生徒同士が互いにからかいあい、それに対する反応を探り合う中で次第に「いじめに弱い子」が浮かび上がってくる。子供にとっては正念場。

1. **流動性段階**

立場の入れ替わり、標的の交代がおこる。「自分もいじめられるかもしれない」という**恐怖**から**傍観者が増加**。特定の悪者はいないが、次第に**集団の力学の原理**で各自の立場が定まってくる→③へ

1. **固定化段階**

「流動性」への恐怖から「いじめ」に於ける役割が固定化される。

cf.森田洋司の考察　〜小学校•中学校でのいじめにおける人数比〜（表参照）

　＝いじめの問題についてデータ集計をもとに考察

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 数値は％ | 加害者 | 被害･加害者 | 被害者 | 仲介者 | 観衆 | 傍観者 |
| 小学校 | 19 | 20 | 16 | 7 | 6 | 33 |
| 中学校 | 20 | 8 | 9 | 4 | 16 | 44 |

* 語句注　•加害者…積極的にいじめを主導

　　　　　　　　 •被害•加害者…加害者によっていじめをさせられている

　　　　　　　　　　 •被害者…いじめの標的

　　　　　　　　　　　•仲介者…いじめを制止しようとする

　　　　　　　　　　　•観衆…直接手は下さないが、いじめを面白がって見て煽る

　　　　　　　　　　　•傍観者…いじめを「見て見ぬ振り」をする

○小学校から中学校になると、被害者層が減り観衆や傍観者が増える

　→いじめの標的が特定の子供に集中

　→いじめの長期化•残酷化

* いじめの問題は主に中学校でおこる（いじめ発生件数のピークは中学一年生）
* 「かつてのいじめ」と「現在のいじめ」の比較

　　　　•かつてのいじめ

　　標的は「弱者」。いじめの被害者には「**いじめのレッテル**」が貼られた。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（＝貧乏、障害者、成績が悪い…）

　　　　•現在のいじめ

　　かつてと標的が変わり、真面目な子•優等生•成績の良い子が標的となることも。

　　“みんなと同じようにしなければ”という「**集団の画一化**」の心理働く。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（＝出るくいは打たれる、の原理）

　　→子供の個性を殺す

1. **手口の陰湿化**

**•言い訳作り**…あらかじめ教師に見つかった際の「言い訳」を考えてからいじめる

 **・粗暴化**…集団で一人を暴行

 **・ボスの命令**…親友同士に喧嘩をさせる(直接手は下さない)「２人が勝手にやった」「自分は止めようとした」「勇気を付けさせようとした」等と言い訳

⑤**非行化の段階(手口の犯罪化)**

　　ex.万引きの強要、性犯罪(着ているものを脱がす、トイレを覗く…)

　　　→・被害者の恨みから加害者の殺人事件に発展したケースも

　　　　・いじめによる自殺の発生

ex.中野富士見中事件＝社会が学校内のいじめの深刻さに気付くきっかけに

(3)原因

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 外的 | 内的 |
| 誘因の増加　↑ | ① | ② |
| 抑止力の低下↓ | ③ | ④ |

①外的な誘因の増加　*＝非行集団による弱い者いじめ*

　　　校外非行集団が学校内で横行

　→リーダーへの中傷＋リーダー側の子供のうち何人かを見せしめにいじめる

　　→いじめの恐怖から、子供たちがリーダーから離れる

　　→一部は「加害者」に。一部は「傍観者」に。

　　※つまり、**加害者(＝非行集団)**が横行すると**仲裁者(＝リーダー)**が黙殺され、一般の子供が見て見ぬふりをする**傍観者**や間接的にいじめを助長する**観衆**になる

　　【「校内暴力」と同じ構図　cf.２－(1)Ｂ】

②内的な誘因の増加　*＝生徒管理の行き過ぎと生徒の不満*【cf.１－③「板挟み説」】

　　　校内暴力

　　→学校側の生徒管理強化

　　→生徒側の欲求不満

　　→いじめの原動力

　③外的な抑止力の低下　*＝教師からの不可視性*

・手口の偽装、正当化

　　・いじめの動機がわかりにくい

　　・加害者、被害者が流動的でわかりにくい

　　・被害者や周囲の人間が情報を教師の耳に入れない(チクリを恐れて)

　　・教師の多忙化(ex.校内暴力の対処、学校行事、部活動)

　④内的な抑止力の低下　*＝子供の行動基準が「善か悪か」から「面白いか否か」に変化*

　　「人の痛みがわからない」からいじめるのではなく、「相手が困っているのを見て面白がる心理」によっていじめている

　　　→「お笑い番組」の影響？(「お笑いブーム」と「いじめのピーク」はリンク！)

(4)対策

　①**いじめの発見**

ex.**ソシオメトリックテスト**

クラスのインフォーマルな集団(＝派閥)を知るためのテスト。例えばクラス全員に「一緒に勉強したい人/したくない人」を書かせ、クラス内の相関図、人脈図を作成。

　②**いじめへの介入**

ex.**ロールプレイ**

例えば生徒一人一人に「仲間外れ」をテーマにシナリオを書かせる。最初は「わがままでいじめられた子が転校する」といった安易なものが出そろうが、ロールプレイを行う過程で「転校しなくて済むストーリー」を考えさせ、「いじめ」について生徒一人一人が考える契機とする。また、役を演じることで「いじめっ子」や「いじめられっ子」の心理を理解させることができる。

　③**いじめの予防**

ex.**レヴィンの実験：専制的リーダーシップといじめ**

　　　11歳の子供を5名1グループに分け、同じ仕事をさせる。ただしリーダーには２タイプを設ける。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **専制的リーダーシップ** | リーダー | **民主的リーダーシップ** |
| リーダーが全て決める | 方針 | 全員の討議 |
| 〃 | 仕事分担 | 全員の合議 |
| × | 見通し | ○ |
| 個人的な批評 | 批評 | 事実に即した客観的批評 |
| ○ | 仕事量 | ○ |
| 受動的(リーダーに従うのみ) | 仕事の質 | 能動的(自分から進んで分担) |
| 弱い者いじめ(←欲求不満から) | 雰囲気 | 友好的 |

⇒教師が「専制的リーダーシップ」を取る(＝管理主義、集団主義)ことでいじめが発生する、という指摘。いじめ予防のためには「民主的指導」が求められる。

ex.**異年齢集団作り(きょうだいづくり)**

かつての地域社会

　　　「年長者＝強者・年少者－＝弱者」と強者と弱者が年齢によって明確であったため、年長者が年少者の争いを仲裁するなど抑止力となっていた。また、その過程を通じて年長者の間には弱者へのいたわりが自然と形成されていった。

　　　⇔しかし近年都会化にともなってこうした集団が消滅、今まで自然に身についていた「抑止力」や「弱者へのいたわり」が子供たちの身に付かなくなった。

　　　⇒そこで、主に**小学校**で導入されたのが「異年齢集団作り」

　　　　(cf.中学校では非行集団の感染防止のため「学年隔離政策」が取られる)